

第3学年1組 塩浜ふるさと防災科学習指導案

令和元年7月3日（水）4校時

指導者 ● ● ● ●

展開場所 3年1組教室

1. 単元名「塩浜ふるさとの生き物発見！」

2. 単元について

(1) 単元観

「塩浜ふるさと防災科」は平成27年度に塩浜学園が小中一貫校として開校した際に、特色ある学びの一つとして創設された教科である。他教科とは異なり「9年間を貫くカリキュラム」であるということが大きな特色である。その中で本単元は、「塩浜ふるさと防災科」指導要領の

目標 (1) 塩浜の自然、産業、歴史を知り、それに関わる活動を体験することで、塩浜地域に対する愛着心を持つ。

内容C「地域への理解と愛着を深める」

(1) 地域の歴史や自然環境、そこに生活する人々について知り、地域を理解する。

内容D「科学的理解を深める」

(1) 理科、社会、算数など他教科との関連をいかしながら、地域の土地の様子、自然環境、生物などについて理解を深める。

を受けて設定したものである。

これまで児童は1年生では学校たんけん、2年生では町たんけん、3年生では社会科の学区たんけん和世界を広げてきた。しかし児童の中の「塩浜」は、児童が活動する範囲内であるハイタウンと市営住宅内であり、中には、「塩浜のことは何でも知っている」というつもりでいる子も多くいると思われる。児童の思う「塩浜」の範囲をさらに広げ、知った気になっている塩浜にはまだまだ知らないことがたくさんあることに気付かせ、ふるさとである塩浜をもっと好きになってほしいと考え本単元を設定した。新浜鴨場や鳥獣保護区の見学を通して、塩浜にたくさんの自然があり、生き物が生息していることを知り、その自然や生き物、鳥獣保護区という場所について調べる中で、ふるさとである塩浜の自然を誇りに思う気持ちを育てていきたい。

児童にとって、校舎横の林の向こうは未知の世界である。林の向こうに何があってどんな世界が広がっているのかを知ることから始める。まずは、新浜鴨場を見学し、いったいどんな場所なのか、何のための場所なのかを知る。次に鳥獣保護区の見学を行う。鳥獣保護区では、鴨場以上に様々な生き物に出会うことができるだろう。その驚きを大切に、見つけた生き物について図書資料などを活用して調べていく。児童にとっては、初めての本格的な調べ学習になる。そのため、何のために調べるのかという目的意識をもたせること、どうやったら知りたいことが書かれているページにたどりつけるのかの手順を丁寧に指導していきたい。

そこで、児童が3年から毎日取り組んでいる音読、「のはらうた」と結び付けたゴールを設定す

ることとした。「のはらうた」は詩人工藤直子さんが「のはらむら」の住人になりきって作った詩である。児童は、「今日は誰のはらうただろう?」「どんなのはらうただろう?」と毎日の音読を楽しみにしている。誰でも知っている生き物や自然をリズムもよく、適度な長さで書いてあり、児童にとってはとても親しみやすい。春の「のはらむら」の様子を描いた地図もあり、国語の時間を使って、児童は自作の「のはらうた」を作成したところである。その経験を生かして、本単元では塩浜を「しおはまむら」とし、自作の「しおはまうた」を作ることをゴールとして設定することにした。たくさんの生き物や自然があることに驚いた児童が、もっと知りたいことを調べる際に、「しおはまうた」を作るための材料集めという目的を持たせることができるとともに、調べたことを表現する手段としても児童の実態から適していると考えた。

(2) 児童の実態 (男子15名、女子8名 計23名)

本学級の児童は、元気いっぱいエネルギーに満ちた子が多い。様々なことへの興味関心は高く、してみたい、見てみたい、触ってみたいと日々の活動に取り組んでいる。また、前向きな児童が多く、初めは不安そうにしていたことも、始めてみると「できる」と自信を持ち、教師が思った以上の頑張りを見せてくれることもある。しかしながら、特別な支援を要する児童が多く、自己中心的で幼い。また学力的にも低い児童、家庭的な問題を抱えた児童も多く、生活習慣、学習規律に課題がある。

すべての児童が旧塩浜小学区から通っている。勝手知ったるハイタウン内では、遊ぶ約束をせずとも、公園に行けば、友達がいて一緒に遊べる環境にあり、男女ともに放課後や休日には遊んでいるようだ。そのため塩浜のことを「自分の町」と思い愛着を持っている児童は多い。

調べる活動では、適した図書資料を分類や書名から選ぶことはできるが、その本の中から調べたいことが書かれているところを見つけることが難しい児童が多い。図書資料から調べる、という活動の経験の少なさもあるが、文字をすらすらと読めなかったり、明確に何を調べるのかよくわかっていなかったりすることが原因であると思われる。表現する活動については、昨年度町たんけんの発表会を行い、グループで一つの壁新聞にまとめて発表する経験をしている。理科で積み重ねている観察カードの内容も経験を重ねるたびにたくさんの発見をし、文章で表現することができるようになってきた。また、毎日音読している「のはらうた」を真似して、生き物や自然になりきって詩を書く活動でも、どんどん発想が膨らみ、楽しい詩を書けるようになってきている。しかし、自分が書いたものを友達に発表するとなると、しり込みをする児童は多い。自信のなさがうかがえる。本単元では、調べたことを詩で表現する活動なので、恥ずかしがる児童は多いと思われるが、作った詩を友達と交流することで、表現活動への自信もつけさせていきたい。

仮説との関連

研究仮説

塩浜ふるさと防災科を中心に、各教科の特性に応じて工夫した言語活動を取り入れることで、主体的に学び、高め合う児童の姿がみられるだろう。

【仮説への手立て】

① 児童の興味・関心を引き出すための体験的な活動

学習のはじめに、新浜鴨場と鳥獣保護区の見学を行う。校舎のすぐ横の林の向こうに知らない世界が広がっていることに気付かせ、まだまだ知らない塩浜があることに驚きとともに、もっと知りたいという気持ちを持たせ、塩浜の生き物を調べる活動につなげていく。

② 明確なゴールの提示

言語活動として、詳しく調べた塩浜の生き物になりきって詩を書く活動を行う。塩浜を「しおはまむら」とし、「しおはまむらの住人（生き物や自然）の詩を書く」というゴールを示すことで、調べ学習の目的意識も持たせることができると考える。

③ 国語や図書館司書との連携

本格的な調べ学習が初めての児童であるため、調べ学習の手順について国語の「本でしらべよう」の単元を用いて丁寧に指導する。手順を明確に示すことで、目の付け所や見つけ方がわかるようにしていく。また、あいまいな目的で調べ学習を行うことの内容に、自分が調べたい生き物を決め、自分でその生き物の何を知りたいのかをしっかりと考えさせる。調べる内容を自己決定させることにより、何を調べるのかわからないということをなくしていく。ネットワークを使い生き物関係の調べ学習に適した図書資料を図書館司書と連携して集めておいてもらうとともに、調べ学習の際にはアドバイスや指導をしていただき、

④ 見通しを持たせる

3年生であっても、教師主導ではなく児童自身が「今日の塩ふるの時間に何をするのか」がわかるように児童とともに学習計画を立てる。また、毎時振り返りを行って、次回の見通しも持てるようにしていく。

⑤ 図画工作科との関連

図画工作科と関連させ、「しおはまむら」の地図を作り、視覚的にも達成感を味わえるようにする。目に見えて成果があることは児童にとってうれしいことである。特に本学級の児童は幼いため、手立てとしても有効であると考え。グループごとにそれぞれの部分地図を描き、合体させることで「しおはまむら」全体地図を完成させる。達成感を味わわせるとともに、地図を完成させるためには、そこにあった植物やいた生き物をしっかりと見てこなくとはならず、見学の際の目的意識にもつなげていけると考える。

3. 単元の目標

- 塩浜の生き物や自然に興味を持ち、意欲的に調べたり、詩を作成したりすることができる。
(ふるさとへの関心・意欲・態度)
- 塩浜の生き物の生態について理解することができる。(ふるさとについての知識・理解)
- 調べたい生き物と調べたいことを自分で決め、調べる計画を立てたり、必要な情報を集めたりすることができる。(問題解決の能力)
- 塩浜の生き物や自然を表す地図を作成するために意見を出し合ったり、作った詩を鑑賞し感想を交流したりすることができる。(コミュニケーション能力)

4. 単元の評価規準

ふるさとへの関心・意欲・態度	ふるさとについての知識・理解	問題解決の能力	コミュニケーション能力
<ul style="list-style-type: none"> ふるさとの生き物や自然について興味を持ち、意欲的に調べようとしている。 調べたことをもとに進んで詩を作り、交流しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ふるさとに豊かな自然が残っていることを理解している。 ふるさとの生き物や自然について、その特徴や生態を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ふるさとの生き物や自然を題材にした詩を作るために、調べる生き物や調べる内容を決定している。 自分で決めた調べたい内容を、図書資料を的確に活用して情報を集めている。 詩の完成までの見通しを持って自分で活動を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 完成した詩を交流し、友達の詩の良さを伝えている。 意見を出したり、相談したりしながら地図を作っている。

5. 指導計画 (19時間扱い 本時 12/18)

時数	学習活動	支援 (☆) と評価 (◎)
1	○鴨場ってどんなところだろう？ 鴨場を想像し、いそうな生き物や自然について予想を立て、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ☆鴨場については全くの未知であると想定して、ある程度の情報を与える。 ◎鴨場の航空写真を見て感じたことや考えたことを進んで発表したり、書いたりしている。(ふるさとへの関心・意欲・態度)
2 3 4	○鴨場見学へGO! 鴨場を見学し、いた生き物やあるものを発見し、気付いたことやわかったことについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ☆鴨場の職員の方に質問をする時間を設け、鴨場がなぜここにできたのか、何のためにあるのかを知る機会を設ける。 ☆写真を撮影してきて、児童の振り返りの助けにする。 ◎鴨場について興味を持ち、進んで感想を書いている。(ふるさとへの関心・意欲・態度)
5	○鳥獣保護区って何？ 鳥獣保護区がどんなところなのか予想を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ☆鴨場へ行く途中の野鳥病院やたくさんの自然を想起させ、手がかりを与える。 ◎鳥獣保護区について、知っていることや想像したり考えたりしたことを進んで発表したり書いたりしている。(ふるさとへの関心・意欲・態度)

6 ～ 8	<p>○鳥獣保護区へGO！ 鳥獣保護区を見学し、生き物や自然を発見し、気付いたことやわかったことについて話し合う。</p>	<p>☆案内してくださった方に質問する時間を設け、生き物や自然について知る機会を作る。 ☆見つけた生き物の名前や見つけた場所などが振り返りやすいように写真を撮影する。 ◎案内の方の話を意欲的に聞き、自然や生き物について知ろうとしている。(ふるさとへの関心・意欲・態度) ◎見つけた生き物の名前や見つけた場所について理解している。(ふるさとへの知識・理解)</p>
9	<p>○今後の学習について話し合う。 もっと知りたいことは何かを整理し、知るためにはどうしたらよいか、知ってどうするのかを話し合う。</p>	<p>☆今後の学習を児童と作っていくために、知りたいことやしたいことを付箋を使って整理する。 ☆知りたい、したいだけでなく、知ってどうするのか調べてどうするのかを話し合いの中心にする。 ◎もっと知りたいことを明確に持ちながら、話し合っている。(ふるさとへの関心・意欲・態度)</p>
10	<p>○学習の計画を立てる。 調べる活動・調べたことをまとめる活動・詩を書く活動にどのくらいの時間が必要なのかを自分たちで考える。</p>	<p>☆活動のゴールが明確になるように、「しおはまむらの住人になってしおはまうたをつくろう」というゴールを設定する。 ☆ゴールの姿として以前作った「のはらうた」や「のはらむらの地図」を提示することで、何をしたり、何を作ったりする時間が必要なのかを考える手助けにする。 ◎ゴールまでに何をどうする時間が必要なのかを意欲的に考えている。(問題解決能力)</p>
11	<p>○調べ方について知る。(図書) 自分が調べたい生き物や自然について、何を知りたいのかを考え、手順に従って調べる。</p>	<p>☆国語の「本で調べよう」の単元と絡めて、調べ方の明確な手順を示す。 ☆あらかじめ項目だてしたワークシートを用意し、調べた内容を書き抜きやすくする。 ◎手順を知り、自分が調べたい内容について考え、調べている。(問題解決能力)</p>
12 (本時) ～ 14	<p>○調べてまとめる。 調べた内容をワークシートにまとめていく。</p>	<p>☆図書館司書の先生に関連する本を集めておいてもらい、教室に置くことでいつでも児童がみられるようにする。 ◎自分が決めた生き物や自然について調べたいことを自分で決めている。(問題解決能力) ◎的確な図書資料を用いて調べたい内容を見つけている。(問題解決能力)</p>
15	<p>○詩を書く。 調べた内容を踏まえて詩を書く。</p>	<p>☆調べたことを記入したワークシートをもとに、調べた内容を入れて作るようにする。 ◎調べた内容をもとに、意欲的に詩を書いている。(ふるさとへの関心・意欲・態度)</p>

1 6 ・ 1 7	○しおはまむらの地図を描く。 グループごとに分担し、地図を描く。(図工)	☆あらかじめ下書きされている地図を用意し、分担する前に全体がわかるようにする。 ◎グループの友だちと協力して、地図を描いている。(コミュニケーション能力)
1 8	○しおはまむらの地図を完成させる。 自分が選んだ生き物や自然を地図の中に描き、地図を完成させる。	☆これまでの活動を振り返るとともに達成感を味わわせるために、試作した詩を地図に貼り、完成した地図を見て感想を交流しあう。 ◎友達の詩の良さに気付いたり、調べ学習が生きている詩に気付いたりし、感想を交流したりしている。(コミュニケーション能力)

6. 本時の指導

(1) 本時の目標

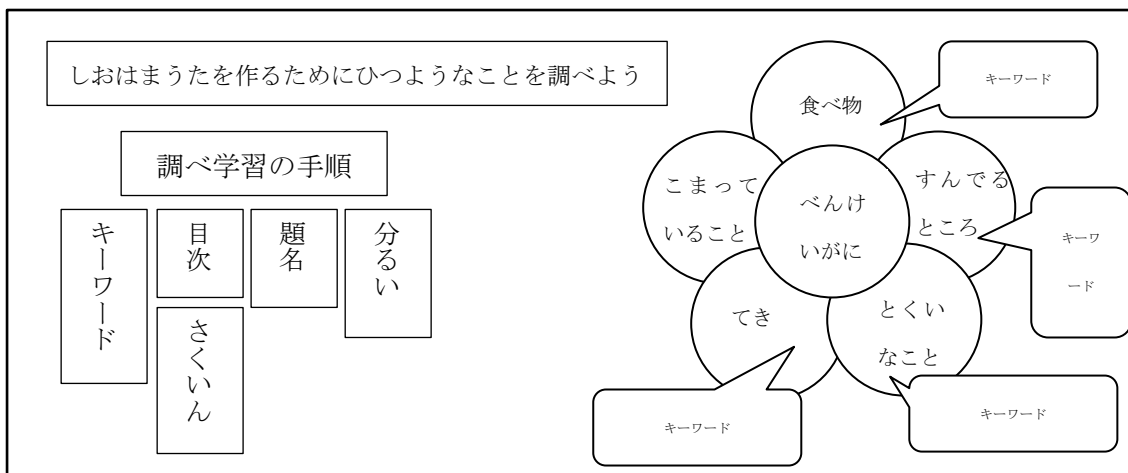
- ・自分が調べたい内容について、図書資料を活用して、進んで調べようとしている。
(ふるさとへの関心・意欲・態度)
- ・自分が調べたい生き物や自然の何について調べたいのかを考え、調べることができる。
(問題解決能力)

(2) 本時の展開 (12/18)

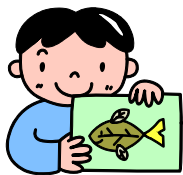
時配	学習内容と活動	支援(☆)と評価(◎)
2	1. 前回立てた学習計画を確認し、本時の活動を知る。	☆学習計画に矢印で本時を示し、本時がどこにあたるのかが視覚的にもわかるようにする。
	「しおはまうた」を作るために必要なことを調べよう。	
7	2. 前時を想起し、調べ学習の手順を振り返る。 ①分類 ②本の題名 ③目次または索引 ④キーワードを探しながら読む	☆手順を一つずつ貼りだし、視覚的にもわかるようにする。 ☆自分の調べについて想起できるようにするために、どんな生き物や自然を調べたいのかを前もって決めておく。
5	3. 調べたいことを決める。 ベンケイガニの①食べ物 ②住んでいるところ ③得意なこと カワウの①大きさ ②食べ物	☆花びら型のワークシートに調べたいことを書き込ませることで、調べることを明確にする。 ☆なかなか決められない児童には、前時に話し合ってきた内容から選ぶようにさせる。

25	5. 図書資料を使って調べる。	<p>◎何を調べたいのかを考えることができる。 (ワークシート)</p> <p>☆調べ学習に入る前に、キーワードを確認する。</p> <p>☆ページがわかっても見つけられない児童には、ゆっくり読むように声をかけたり、一緒に読んだりする。</p> <p>☆見つけたことは、すぐにワークシートに書き抜くようにさせる。</p> <p>◎自分が調べたい内容について図書資料を活用して進んで調べることができる。(ワークシート・発言)</p> <p>◎調べたい内容について、適切な図書資料を活用して調べることができる。(ワークシート)</p>
5	6. 調べたことを発表する。	<p>☆次回の調べ学習のヒントになるように、どの図書資料にのっていたかも発表させる。</p>
1	7. 次時の見通しを持つ。	<p>☆学習計画を確認し、次回も調べ学習を続けていくことを伝える。</p>

(3) 板書計画



海洋教育パイオニアスクールプログラム「海とつながる 2019」 3年生 塩浜ふるさと防災科「塩浜ふるさとの生き物発見」



主体的に学び、高め合う
児童生徒の育成めざして



今、子供たち一人ひとりに確かな学力をつけることが求められている。学力向上に向けては、子供たちの学ぶ意欲を高めることが大切である。各教科の指導では、課題を解決する学習を基本として、自ら調べ考える活動や体験的な学習を取り入れ、わかる喜びが実感できる授業づくりに努めているところである。

本校には「塩浜ふるさと防災科」という独自の教科がある。平成27年度に塩浜学園が小中一貫校として開校した際に、**特色ある学び**の一つとして創設された教科である。他教科とは異なり「9年間を貫く教科」であることが大きな特色である。主体的に学び、高め合う児童生徒の育成をめざし、3年生と6年生で授業研究会が行われた。



【授業のめあて】

「しおはまうた」を作るために必要なことを調べよう

【授業内容】

3年生は、毎日音読している「のはらうた」（詩人の工藤直子が「のはらむら」の住人になりきって作った詩）を真似して、生き物や自然になりきって詩を書く活動をしてきている。国語の時間を使って、児童たちは自作の「のはらうた」を作成した。その経験を生かして、塩浜を「しおはまむら」とし、自作の「しおはまうた」を作ることをゴールに設定。

たくさんの生き物や自然についてもっと知りたいことを調べる際に、「しおはまうた」を作るための材料集めという目的を持って取り組んでいる。

児童たちは、自分が調べたい生き物や自然について図書資料を活用し、進んで調べていた。

“花びら型のワークシート”に調べたいことを書き込むことによって、調べることが明確になったようだ。調べたことを友達に分かり易く発表できた。

鳥獣保護区見学

3年生 6月18日

鳥獣保護区で、カニ、トビハゼ、スジエビを見つけた3年生は大喜び。「塩浜学園の近くにこんな自然が残されているとは驚きました」と児童の感想。一週間前の鴨場見学に加え、地域の自然や環境などを知る学習となり、大発見をしてきた。

●行徳鳥獣保護区とは

葛西から西船橋に至る一帯は、1960年代まで、干潟、アシ原、蓮田や水田などが広がる湿地だった。なかでも行徳・浦安エリアは、宮内庁の『新浜鴨場』があることから“新浜(しんはま)”と呼ばれ、水鳥が多いことで世界的に有名。

その後、地域開発により一帯は埋め立てられてしまったが、湿地環境の復元を目指して、保全・造成されたのが『行徳鳥獣保護区』。保護区と『新浜鴨場』を合わせた『行徳近郊緑地特別保全地区』は約83ha。このなかでは水鳥をはじめ生き物や自然環境の保護が優先され、人の利用は必要最小限にとどめられている。



3年生 浦安市郷土博物館見学

～ 調べよう 昔の暮らし

1月22日、3年生は、社会科の授業で取り組んでいる「調べよう 昔の暮らし」の授業の一環として浦安市郷土博物館へ出かけました。塩浜と浦安は隣町であり、海に接しているという共通点があるので、塩浜の昔の暮らしを知るヒントになりました。郷土博物館には貴重な資料がたくさん保管されており、昔の暮らしと今に暮らしの違いを学ぶのに大いに参考となったようです。

浦安市の歴史、変遷を博物館の方からお話を聞いたり、ビデオを見たりしました。また、べか船の乗船や七輪体験、昔の道具探しもしてきました。

まさに「百聞は一見に如かず」です。目で見て、人から話を聞いたことを、今後の学習に生かしていく予定です。



▲七輪体験 ▼べか船の乗船の様子



3・4年生 海苔すき体験

